



大隈

秘

第九號

277



11

12

114
A 2593



第一章 帝國議會ノ召集及開會

第一條

帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ日時ヲ指定シ少
クトモ集會ノ期日ヨリ四十日前ニ之ヲ發布ス
ヘシ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大正
十一年

第一章 第一條

第二條

議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル日時ニ於テ各
議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第二條

第三條

憲法ニ定メタル議員ノ負數集會シタルトキ衆
議院ノ議長副議長ハ其第一任期ニ於テハ議員
ヨリ之ヲ勅任シ第二任期以下ニ於テハ議員之
ヲ互選シ勅許ヲ請フヘシ

第三條

第四條

各議院ハ其必要ニ從ヒ部ヲ設ケ抽籤法ヲ以テ
議員ヲ分配スヘシ
各部長ハ各部ニ於テ部員ヨリ之ヲ互選スヘシ

第四條

第五條

兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會
ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開
院式ヲ行フヘシ

第五條

第六條

前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ
行フヘシ

第六條

第七條

各議院ハ詔命ニ奉對スル為ニ上奏書ヲ作リ議
長又ハ其ノ代理者ヲ以テ總代トシ宮内大臣ニ
依リ觀謁ヲ請ヒ之ヲ奉呈スヘシ

第七條

第二章 議長書記官及經費

第八條

衆議院、議長、副議長、各一員、一人

第二章 第八條

第九條

衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依

第九條

第十條

衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ由
リ嗣位トナリタルトキハ繼續者ノ任期ハ仍前
任者ノ任期ニ依ル

第十條

第十一條

兩議院ノ議長ハ各議院ノ秩序ヲ整理シ議決ヲ
宣告シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス
議長ハ議會閉期ノ間ニ於テ仍各議院ノ事務ヲ
指揮ス

第十二條

議長ハ常任委員及特別委員會ニ臨席シ發言ス
ルコトヲ得但表決ノ數ニ預ラス

第十三條

各議院ニ於テ議長故障アルトキハ
副議長之ヲ
代理ス

第十三條

第十四條

貴族院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アリテ勅旨
ヲ以テ代理議長ノ命セラレタルトキ及衆議院
ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ臨時假
議長ヲ推選シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十四條

第十五條

衆議院ノ議長副議長ハ任期満限ノ後ニ於テ新
議負集會ノ期日ニ至ルマテ仍其職務ヲ繼續ス
ヘシ

第十五條

第十六條

各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置キ
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條

書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ
總提シ公文ニ署名ス

書記官ハ諸般ノ文書及事務ノ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ
任ス

第十八條

又 兩議院ノ經費ハ定額ニ依リ國庫ヨリ之ヲ支辨

第十八條

第三章 衆議院議員年俸

第十九條

衆議院ノ議長ハ年俸 圓副議長ハ 圓議
員ハ 圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ
旅費ヲ受ク
議長副議長及議員ハ年俸ヲ辭スルコトヲ得ス

第四章 委員

第二十條

委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類ト

ス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員會ト為スモ

ノトス

常任委員ハ一定ノ事件ヲ審査スル為ニ各部ニ

於テ平等ニ議員ヲ互選シ一會期中其任ニ在ル

モノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル為議員ノ互選ヲ

第四章 第二十條

以テ特ニ附託ヲ受クルモノトス

第二十一條

全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ議
員之ヲ互選ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之
ヲ互選ス

第二十一條

第二十二條

全院委員會ハ議員三分ノ一以上常任委員會及
特別委員會ハ其ノ委員半数以上出席スルニ非
サレハ議決ノ効力ヲ有セス

第二十二條

第二十三條

常任委員會及特別委員會、議員、外僑聽、禁
ス但委員會ノ議決ニ由リ委員ニ非サル議員ノ
傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條

各委員長、委員會、經過及結果、議院、報告

スヘシ

第二十四條

第二十五條

各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其認可ヲ経テ
議會閉期ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續ス
ルコトヲ得

第二十五條

第五章 會議

第二十六條

議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニス
ヘシ但他人議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ承諾
ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二十七條

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但
政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ
議院ニ於テ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シ
タルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條

政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經ス
シテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ
於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニアラス

第二十八條

第二十九條

第四十一條ニ掲ケル場合ヲ除ク外政府ヨリ提出シタル議案。就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スル者ハ十人以上ノ賛成アルニ非カレハ議題ト為スコトヲ得ス

第二十九條

第三十條

政府ハ何時クリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修
正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十條

第三十一條

政府ノ議案ニ関ル議決ハ衆後ニ議決シタル議
院ノ議長ヨリ内閣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第三十一條

第三十二條

西議院ノ議決ヲ徑テ奏上シタル議案ニテ裁
可ヲ予ヘラル、者ハ次ノ會期マテニ公布セラ
ルヘシ

第六章 休會停會閉會

第三十三條

各議院ハ非常ノ場合ヲ除ク外休會三日ヲ超スルコトヲ得ス

政府ハ何時クソトモ三日以内ニ於テ議院ノ休會ヲ命スルコトヲ得

第三十四條

議院停會ノ命ヲ受ケタル場合ニ於テハ前ノ議
事ヲ繼續セス

第二十四條

第三十五條

帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサル者ハ後會ニ繼續口又但第三十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條

閉會ハ勅命ニ由リ西儀院合會ニ於テ之ヲ舉行
スルコト開會ノ式ニ同シ

第七章 秘密會議

第三十七條

議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條

議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シ
タルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ議
院ハ討論ヲ用ヰスシテ可否ヲ決スヘシ

第三十九條
秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サズ

第三十九條

第八章 豫算案ノ議定

第四十條

政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シテルトキハ
豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取タル日ヨリ三十
日以内ニ其ノ調査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條

豫筭案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ
發スル者ハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ
議題トスルコトヲ得ス

第九章 國務大臣次官及政府委員

第四十二條

國務大臣次官及政府委員ノ發言ハ何時タリト
モ之ヲ許スヘシ但之カ為ニ議員ノ演說ヲ中止
セシムルコトヲ得ス

第九章

第四十二條

第四十三條

議院 = 於テ議案ヲ委員會ニ附シタルトキハ國務大臣次官及政府委員ハ何時ヲリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述ルコトヲ得

第四十四條

委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求
ムルコトヲ得

第四十五條

國務大臣次官及政府委員ハ議事ヲ以テ除ク
外議院ノ會議又ハ委員會ニ於テ表決ノ數ニ預
ラズ

第四十六條

常任委員会又ハ特別委員会ヲ開クトキハ毎會
委員長ヨリ其主任ノ國務大臣次官及政府委員
報知ス

第四十七條

議事日程及議事ニ関スル報告ハ議員ニ分配ス
ルト同時ニ之ヲ國務大臣次官各員及政府委員
ニ交付スヘシ

第十章 質問

第四十八條

政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルノ發議者二十
人以上ノ賛成者ト共ニ連署シタル簡明ナル主
意書ヲ議長ニ提出スルニ

第四十九條

曾向主事書ハ、議長之ヲ朗読セシム演說及討論
ヲ用キスニテ直ニ議決ニ付シ其ノ可決シタル
トキハ、議長ヨリ之ヲ政府ニ送付ス國務大臣ハ
直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯ス一キ期日ヲ定メ又
ハ答辯ヲ爲サ、ルノ理由ヲ示明ス一シ

第五十條

議院ニ於テ吾等ヲ得タル時、其事件ニ付キ討
論スルコトヲ許サズ但更ニ建議ヲ提出スルコ
トヲ得

第十一章 兩議院關係

第五十一條

豫美及會計ニ関ル者ヲ除ク外政府ノ議案ハ先
ツ兩議院ノ一ニ附スルコト便宜ニ依ル

第五十二條

甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シ
テ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移ス一シ乙
議院ニ於テ甲議院ノ決議ニ依リ可決シ又ハ否
決シタルトキハ之ヲ政府ニ呈出スルト同時ニ
甲議院ニ通知ス一シ

第五十三條

乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ
之ヲ修正シタルトキハ其理由ヲ付シテ之ヲ甲
議院ニ回付ス一ニ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正
ニ同意シタルトキハ直ニ之ヲ政府ニ呈出スル
ト同時ニ乙議院ニ通知ス一ニ若シ反ニ同意セ
サルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ム一ニ
甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ
乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條

兩院協議會ハ一ノ成案ヲ調整スル爲兩議院ヨ
リ各十人以下同數ノ委員ヲ撰派ス委員ノ協議
案成立スルトキハ原案ヲ政府ヨリ受取リタル
甲議院ニ送テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移ス
ヘシ
協議會ニ送テ調整シタル成案ニ對シテハ更ニ
修正ノ動議ヲナスコトヲ許サス

第五十五條

各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出
席ニニ意見ヲ述ルコトヲ得但議長ノ職ニ預ラ
ズ

第五十六條

兩院協議會、傍聽ヲ許サズ。

第五十六條

第五十七條

西院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票
ニ依ル

第五十八條

兩院協濟會ノ議長ハ兩院選派委員ニ於テ各
一員ヲ互選シ各會ニ更代ニテ席ニ當ラシムヘ
シ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ
定ム

第五十九條

本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ節目ハ
其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムルニ

第十二章 上奏及建議

第六十條

各議院其意見ヲ上奏セントスルヲキハ宮内大臣ニ依リ豫メ勅許ヲ請ヒ議長又ハ其代理者ヲ以テ總代トシ覬謁ヲ得テ上奏又昏ヲ奉呈スヘシ

第六十一條

三 各審院ノ建議ハ其文書ヲ以テ政府ニ提出ス

第六十二條

各議院ヨリ上奏又ハ建議ヲ進ムルノ動議ハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スヲトヲ得ス

第六十二條

第十三章 諸願

第六十三條

各議院ニ提出スル人民ノ請願書ハ議院ノ紹介
アルヲ待テ議院之ヲ受取ルニシ

第六十四條

請願書、各講院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審
査ヒシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハストスルト
キハ議長ハ紹介ノ請願ニ由ラズ之ヲ却下ス一シ

第六十五條

諸願委員ノ特別ノ報告又ハ請負二十人以上ノ
要求アルトキハ各議院ハ其諸般事件ヲ合議ニ
附ス一三

諸願委員特別ノ報告ヲ為サ、ルトキハ請負又
書表ヲ作り其要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告
ス一三

第六十六條

各議院ニ於テ諸臣ノ採擇スルキコトヲ議決シ
タルトキハ意見書ヲ付シ其議院層ヲ政府ニ送
付スルニ

第六十七條

法律上法人ト認メラレタル結社ヲ除ク外總成
ノ名義ヲ以テ請願スル者ハ各議院之ヲ受クル
コトヲ得ス

第六十八條

各議院ハ憲法ヲ變更スルノ権ヲ受ケルコト
ヲ得ス

第六十八條

第六十九條

請取書ハ總ニ京桑・體式ヲ用エヘシ若シ清能
ハ名義ニ依ラス若クハ其體式ニ違フ者ハ各請
院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條

請願書。ニテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ各議院又ハ行政及司法官ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キル者ハ各議院之ニ受ケルコトヲ得ス

第七十一條

各請院、司法及行政裁判ニ干預スルノ権能ヲ
受クルコトヲ得^但理由ナキ裁判ノ遅延若クハ
違法ノ拒絶ニ對スルノ権能ハ其限ニ在ラス

第七十二條

各藩侯各別ニ諸願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會ト

ノ關係

第七十三條

各議院ハ政府ノ承諾ヲ經スニテ全國又ハ一部ノ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十四條

各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚スルコトヲ得
ス

第七十四條

第七十五條

各議院ヨリ審査ノ爲ニ内閣及各省ニ向テ必要
ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ内閣及各省
ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其求ニ應スニシ

第七十六條

各議院、内閣及各省、外他、官廳及地方議會
ニ向テ往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十七條

衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員又ハ法律ニ依
リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタル
トシテ退職者トス
文武ノ勲功ニ因リ恩給年金ヲ受クル者ハ前項
ノ限ニ在ラス

第七十八條

衆議院ノ議員ニシテ選挙法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失フトキハ退職者トス

第七十九條

衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタル
トキハ特ニ委員ヲ設ケ日時ヲ期シ之ヲ審査セ
シメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第八十條

裁判所ニ於テ當選訴訟ヲ判決シ已ニ確定裁判
ヲ經タル者ハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査
スルコトナシ

第八十一條

講員其ノ資格十キコトヲ證明セラル。ニ至ル
コトハ講院ニ於テ経列及發言ノ權ヲ失ハス但
自身ノ資格審査ニ関ル會議ニ對シテハ辨明ス
ルコトヲ得ルモ其表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 告暇辞職及補闕

第八十二條

各議院ノ議長ハ議員一週間ニ超ヘサル告暇ヲ
許可スヘシ其ノ一週間ヲ超エル告暇ハ議院ニ
於テ之ヲ許可ス期限ナキノ告暇ハ總テ之ヲ許
可セス

第八十三條

各議院ノ議員ハ正當ナル理由ヲ以テ議長ニ届
出スシテ會議又ハ委員會ニ出席スルコトヲ得
ス

第八十四條

衆議院ハ議員ノ録職ヲ許可スルコトヲ得

第 八 十 五 條

何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ欠格ヲ生シ
タル時ハ議長ヨリ内務大臣ニ通報シ補闕選舉
ヲ求ムヘシ

第十七章 警察及紀律

第八十六條

各議院開會中內部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ執行ス

第八十七條

政府、各議院ノ要求ニ應ニ警察官吏ヲ遣ニ
長ノ指揮ヲ受ケシムルニ

第八十八條

會議中議員其法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他
絶テ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ之
ヲ警戒ニ又ハ制止シ又ハ其發言ヲ取消サシム
一ニ其命令ニ従ハサル者アルトキハ議長ハ討論
ヲ用テスシテ議院ニ向ヒ當日ノ會議ヲ終ルヲ
テ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムル
コトヲ得

第八十九條

議場騷擾する時ハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ
又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條

第九十條

議長ハ傍聴人ノ會場ノ妨害ヲ爲ス者ヲ退場セ
シメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引
渡サシムルコトヲ得
傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ之ヲ傍聴人ヲ
退場セシムルコトヲ得

第九十條

第九十一條

會議中議首及傍聽人ハ軍人ト軍人ニ非サルト
ニ拘ハラス我輩又ハ兜器ヲ携帶シテ場内ニ入
ルコトヲ許サス

第九十一條

第九十二條

議場ニ出席シタル國務大臣次官及政府委員又ハ議員ハ議員又ハ傍聽人議場ノ秩序ヲ紊ル者
戸出トキ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十三條

國務大臣次官又、政府委員、議席ニ在ル間
議員ト均シク總ニ講場ノ秩序ニ任ル

第九十三條

第九十四條

各議院ニ於テハ皇室ニ對シテ不敬ノ言語論議ヲ爲スコトヲ得ス

第九十五條

各講院ニ於テハ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス
及他人身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十六條

議官議院之委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル
者ハ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復
スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十七條

各議院ハ各其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第十八章第九十七條

第九十八條

各議院ニ於テ懲罰委員ヲ設ケ議長ノ發議ニ依
リ懲罰事件ヲ審査シ議院ノ議ヲ經テ議長之ヲ
宣告ス

第九十八條

第九十九條

委員會又ハ各部ニ於テ紀律ヲ犯シタル者アル
トキハ各委員長又ハ各部長ヨリ議長ニ報告シ
テ處分ヲ求ムルニ

第百條

議事規律ヲ犯スルキハ其輕重ニ從ヒ左ノ處分
ヲ行フ

一 公團ニタル議場ニ於テ違背ス

ニ公團ニタル議場ニ於テ議院ノ指示スル方

式ニ從ヒ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ
多數ヲ以テ之ヲ決ス一シ

第百條

貴族院ニ於テ除名ハ兩命ニ依リ

第一百條

衆議院ハ除名ノ議負再選ニ當ル者ヲ拒ムコト
ヲ得ス

第一百條

第百二條

議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ
爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲
スヘシ

第百三條

議長ニ於テ議員ノ發言紀律ヲ犯スモノト認
ルトキハ假リニ新聞紙及其他ノ印刷物ヲ以テ
公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

其禁止ハ其ノ發言ニシテ懲罰ヲ受ケタルトキ
ハ有効タルヘク懲罰ヲ免レタルトキハ無効ク
ルニシ

議員懲罰ヲ受ケタルトキハ議長ハ其發言ノ全
部又ハ一部ヲ議事録ヨリ削除セシムルコトヲ

得

第百三條

第百四條

議院外ニ於テ前條ニ記載シタル公布ノ禁止ヲ
犯シタル者ハ三十日以上三個月以下ノ輕禁錮
ニ處ス

第百五條

議真正當ノ理由ナクシテ開院ノ後八日ヲ以テ
仍召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナク
シテ會葬又ハ委首會ニ欠席スルニ由リ若クハ
告暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招
状ヲ發シ其招状ヲ受ケタル後八日ヲ以テ仍故
ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其出席ヲ
停止シ上奏シテ處分ヲ請フヘク衆議院ニ於テ
ハ之ヲ除名スヘシ

第百五條



